

# 韓国における教育の一断面

友 村 保 之

## 1. テーマ設定の理由について

日韓両国は36年間に及ぶ日本の韓半島支配という不幸な歴史的背景があり、1945年日本の敗戦、朝鮮の独立から20年間両国の間は全く国交もなく経過したが、1965年国交修復後は両国の友好関係は急速に進み、現在では政治、経済、文化等あらゆる面での交流が活発となり「近くて遠い国」という言葉は既に過去のものとなりつつある。

韓国は独立後数年を経ずして南北の二国に分裂し、内戦という苦しい試練を受けた。夫や兄は北鮮に、妻や弟は南鮮にと肉親がひきさかれ、その消息も判らず、文通も出来ないという悲惨な国民は枚挙にいとまがない。今もなお38度線をへだてて南北が対峙し一発触発の危機をはらんでいるのが現状である。

現在韓国では全国家予算の35%が軍事費だというと多くの日本人は戦時中の耐乏生活を想像するにちがいないが現実の韓国は我々日本人の想像に反して着々と近代的国家を建設しつつある。首都ソウルや釜山、大邱などの大都市は高層ビルが林立し、車は街に溢れ、農村は数年にして大工業団地化し、3年後にはオリンピックを開催し一躍世界の先進国の仲間入り……と国力の充実もさることながら国民の意気も高らかで、その発展ぶりは正に「漢江の奇跡」と呼ばれるにふさわしいものがある。勿論この背景には国交修復後、日本が韓国に与えた財政、技術などの援助が大きな力となっていることは否定出来ないが、国造りにかける国民の熱意がその根底にあればこそ今日の韓国があると言えよう。

その国造りの中でも最も重視されたのが教育である。そして独立後の韓国の教育を一言で表わすならばそれは「反日」「反共」の教育であった。36年間日本の植民地となり祖国を失っていた韓国民の心情を察すると、反日は当然と言っても過言ではない。そして北鮮から受けた略奪、暴行からの「反共」と相俟って、「反共」「反日」は教育のみならず国家再建のシンボルとなり、国民のナショナリズムの中核として国民団結の合言葉となった。

しかしながら1965年日韓の国交修復によって政治、経済、文化の交流も次第に活発となり、日時の経過と共に韓国の国力も増し、反日色も次第にうすれてきた。反日は克己へと変わり、先進国日本を知り、学ぶべき点は学び一日も早く先進国になろうと国を挙げて努力しているのが今日の韓国である。

これを端的に表しているのが1981年の光復節（8月15日の独立記念日）全大統領演説の中の一節であろう。

「我々の国恥について日本帝国主義だけのせいにするのではなく、当時の国際情勢に暗かった我々、国内的

団結を期することが出来なかった我々、そして国力が弱かった我々一人一人のせいであることを峻厳に自責する姿勢を持たねばなりません……。」

また、朝鮮日報1983年「克日への道、日本を知ろう」シリーズよりの一節

「日本の韓国に対する意識と意図がどのようなものであれ、我々は日本と争うにせよ、日本と共に生きるしかない。いずれにせよ、もともと両国の関係は同じ根から分れた幹である。そうであるなら我々は日本を知らねばならない。我々が不幸な過去に執着して日本を遠ざけるほど、その不幸な過去は繰り返されざるをえないという宿命的な認識のもとに、日本がどのような国であり、我々にとってどのような意味をもつ民族であるかを把握せねばならず、日本の長所と欠点を見抜く眼力が必要である。」

韓国は既に発展途上国の域を脱し先進国になりつつあり、日韓両国の関係は日増しに深まっている。地域的にも両国は一衣帯水の間であり最隣国として今後はあらゆる面で密接な関係を持たざるを得ないことを言をまたない。特に我が下関は対韓国への表玄関として今後益々両国文化交流の門戸となる宿命を持つ土地である。これが今回私の研究の動機となった。

## 2. 一国の復興と教育について

一国の復興—特に敗戦後の—が教育にかかっていることは歴史の我々に教えるところである。普仏戦争に破れたプロシアが国の再建の最重点に教育をおきベルリン大学を創設したフンボルトの叡智はこのことを雄弁に我々に教える。日本が戦後40年にして壊滅的な廃墟から立ち上ったのみならず現在では全世界驚異的である経済大国にまでなった原動力が、明治以来の教育に負うことは内外の識者が指摘しているところである。この中でも特に鋭くその核心をついているのは韓国統一日報論説主幹、<sup>イースンモク</sup>李承牧氏の一文であろう。

「日本の敗戦後の民主改革が明らかに外圧の産物であることは、まぎれもないが、ただ外圧だけの所産ではないという点である。(中略) 外圧によって日本がよくなり得たのは、その外圧をうまく活用できる能力と与件を日本自らが内部に備えていたからである。(中略) その点日本の場合、まず近代的国家運営の経験と人材があったし、文盲がいらないのは勿論、多くの高等教育人口を輩出していたなど全体的な教育水準が高かった。そして戦後日本の各界を実質的に担当した主役や中堅層が、人間形成期であった中学から大学に至る時期に大正デモクラシーの洗礼を受け、民主主義を受け入れられる素地を持った層がいたということが重要な点だ。」(朝鮮日報編「韓国人が見た日本」P.19より引用)

戦後の復興が過去の教育に負うものであれば今後の日本の発展は現在の教育如何に依るといえよう。では日本の現在の教育はこのままでよいのか。

## 3. 日本の教育における偏欧米性について

現在政府は遅蒔きながら教育の再検討を考え各界の頭脳を集め改革を試みようとしている。

曰く大学入試の改善、曰く学校制度の見なおし、曰く学歴偏重の是正、また最近ではいわゆる校内暴力、いじめ対策等その内容には見るべきものが多いが、その盲点ともいうべきもの一つに「教育の偏欧米性」がある。

日本の教育は明治以来欧米を目標にしその文化を吸収することに専念してきた。そして、それは日本の近代化に大きく貢献した。しかしこの偏欧米化は必然的に東亜近隣諸国の蔑視化につながる。これが日清戦争であり、朝鮮への侵略という軍国主義の温床ともなった。人類の歴史は戦争の歴史とも言える。強者が弱者を滅ぼし、支配し奴隷化し、また次の強者が現われ…のくり返しであった。しかし近代核兵器の出現はこの戦争に終止符を打たざるを得なくした。今後戦争が再発すれば、それはすなわち人類そのものの滅亡につながる。戦争は如何なる理由があろうとも起こしてはならぬ。その意味で戦争放棄を高々と憲法に掲げ万国と友好を目標に再出発した日本は世界の範となるべきであり、このことから日本の教育は当然近隣諸国をもっと重視し、これらの国々との友好に、文化の交流にもっと大きく進むべきであろう。この点から見ると日中友好はかなり改善され、中国語もかなりの大学で開講されているが、最も近隣国である韓国に対しては未だしの感が深い。日本の大学で韓国語が開講されているのは外国語を専門とする外語大を別にすれば全国で僅か2～3大学にすぎず、天下の公器を自称するNHKすら（色々な事情はあろうが）昨年やらやと韓国語の放送を開設したということから見ても如何に我が国の教育が欧米一辺倒であるかが分かる。当の韓国では既に高校の第2外語に日本語を取り入れ、ソウル市には200以上も日本語学院があるという。彼らが日本語を学び、日本から多くのものを吸収しようというのと、我々日本人が韓国語を学ぶのにはその目的や必要度が異なることはあっても、国際化が急速に進み、産業、文化等の交流が今後最も密接な関係を持たざるを得ない隣国の韓国を無視して国際友好はあり得ない。

我々日本人は隣りの韓国について余りにも偏見を抱いてないか。戦後生まれの若い世代は韓国を単なる一外国と認識しているようだが、中年以上の日本人は韓国に対し、その植民地時代の追想や在日朝鮮人の生活を見て理由のない侮蔑感を抱き、彼らに対して優越感を持つ者も多いのではないだろうか。この意識を捨て去ることが日本人にとって最大の課題である。確かに在日朝鮮人の大部分は貧しい生活を送っているが、彼らがなぜ日本に住んでいるのか、なぜ貧しい暮らしをさせられているのか、その歴史的背景を考える時、日本政府は深く反省し彼らに対し日本人と同等な扱いをすべきであろう。日本で生まれ、日本の学校で教育を受け、日本語しか判らない在日朝鮮人二世、三世がなぜ職業選択で日本人と差別を受けるのか。この在日朝鮮人に対する暖かい施策と我々国民の差別のない人間関係の樹立こそが対韓国友好の第一歩であろう。

ところで彼らの祖国韓国は日々大きく発展しつつあり、その進歩は極めて速い。それはある意味では明治維新後の日本の飛躍と似ている。彼らが如何に国を建て直し、如何に教育を行っ

ているかその一端を今回見てきた。

#### 4. 韓国の学校教育について

日本でも学歴、学閥は依然として無視出来ないのが現状だが、韓国は日本にもまして学歴社会といって過言でない。一流大学卒業即出世という公式が隅々まで浸透している。これは李朝時代、科擧に合格し兩班（文武兩道の士を意味する語だが実際には文士を指す）になることが最高の出世であったことの名残りでこの風潮が現在も根強く生きている。従って子弟の（特に男子）の教育は他の何よりも最優先し、食うものは食わずとも子弟を一流大学に入れることが親の悲願であり、教育費のために土地を売るなど日常茶飯事である。このため受験競争の酷しさは日本の比でない。日本ではこの教育熱心な母親をいわゆる“教育ママ”と称して揶揄しているが韓国では、オール教育ママといっても言いすぎではない。子弟をソウル大学をはじめ、一流大学に入れるため、進学塾は街にあふれ、家庭教師は、ひっぱりだこ、という過熱ぶりに政府は遂に法令で禁止命令を出し塾は解散、家庭教師は禁止、違反者は処罰ということにしたが、一片の法令でこの過熱が冷却されるものではない。ソウル市で私立高校の教師をしている私の友人の一人は「そのしわよせが学校に集まり、私は正規の授業週18時間の外に補習授業を20時間、計38時間も持たされて、ぶっ倒れそうだよ」とこぼしていたが、どうやらこれは特定の教師のことではなく高校全般の実態と見てさしつかえないようだ。

#### 5. 韓国の学校制度について

韓国はその独立と安全を守るために全国家予算の35%を軍事費という準戦時態勢下にあり、このため教育、文化、民生等の分野は随分圧迫されていることはご存知の通りだが、それにしても学校教育の充実ぶりは眼を見張るものがある。学校制度は6・3・3・4と日本と全く同じだが義務教育は国民学校（日本の小学校。以下（ ）内は日本のものを示す）の6か年のみである。私は今回大邱市教委に依頼し同市の国民学校視察、音楽授業参観、奨学士（指導主事）や校長との懇談などにより、いろいろとその実態を知ったのだが、大邱市の場合、国民学校卒業生のほとんど（99.8%）が中学校に進むという。（もっとも大邱市は韓国第3の大都会、人口200万、日本の大阪ぐらいの大都会なので進学率も高いが農村などを加えた全国平均はもう少し低いのではないと思われる）また、中卒の90%が高校に進学という。一流高校へ志願者殺到ということを防ぐために、大都市では学区群を作り、コンピューターによって生徒を振りわけ、教師も定期異動によって高校の格差の解消に努めている。学校は今も儒教の影響の強い国柄のこと、現在も国民学校（小学校）以外は男女別々。男女7歳にして席を同じうせずの教えが厳然と生きている。しかし男女共学は世界の風潮、この国でも実験的に一部で共学を実施し、その功罪を検討中だが、どうやら成績がよく弊害が余りないので近い中に中学校、

高校でも男女共学が実施されるかも知れないとのことであった。

## 6. 国民学校（小学校）の音楽教育

しかし教育予算が少なく国民学校は大規模校が多く、生徒数が3,000人から4,000人という学校が多い。大邱市は人口200万人で国民学校が210校。（北九州市人口106万人、小学校145校）大規模校は校長の下に2人の校監（教頭）をおき教務・生活指導を分担している。一クラスの学生（児童）は55～60人。日本では想像もできないすしづめ教室がほとんどだ。私が参観した大邱市南部の新興住宅街にある南都国民学校も代表的な大規模学校で6年生の音楽の授業を見せてもらったが、20坪弱の小さな教室に56人の学生がぎっしり入り授業を受けていた。これは普通教室で音楽特別教室はなかった。施設も日本にくらべると、まだかなりの格差があり、楽器もたて型ピアノ一台、オルガン一台、若干の打楽器と生徒個人個人のリコーダーというものであった。

校長の説明では1～2年後学生の自然減によって教室にゆとりが出来たら普通教室を音楽教室などの特別教室に転用する計画だとのことであった。

しかし、この施設の貧弱、生徒のすしづめという悪条件の下で行れた授業ではあったが教師の熱意と学生たちの学習意欲と、その態度のまじめさ、表情の明るさには少なからず驚かされた。日本の大学の先生が視察されるからと前もって言われていたということ割り引いても、それはすばらしい授業であった。

文教部（文部省）から出ている教科課程や、使用している教科書は大体日本のものと大差ないが4時間で指導する「郭公」というへ長調の三部合唱曲を、その最初の1時間日から堂々とハーモナイズされた美しい声で歌い、ソプラノリコーダーで演奏し、学生が交互に指揮するのを見て、これが小学校6年生かと思わず眼を見はった。日本では中学校でも、かなり難しい。指導の先生はあるいは音楽専門の先生かと思って後で校長に聞いて見たが彼女は普通の教師で音楽のみならず他のすべての教科も教える一般の小学校教師とのことだった。勿論日本でもそうであろうが、外国の先生に見せる研究授業ともなれば市内でもかなり優秀な教師が、かなり周到な準備をして実施したのであろうことは十分推察されるから大邱市内では一流の水準のものであろうが、日本の小学校とくらべて、すこしの遜色のない、またその不十分な教育環境を考慮すれば、ここまでの授業を行うための努力は高く評価されてよい。

ところでこのような高度な教育水準は一学校のみの努力ではなく、市教委による全市挙げての音楽普及、向上へのたゆみない実践が、その根底にある。学校の器楽、合唱コンクールがあるのは日本でもあり別に珍しくはなかったが、各校に母親学級があり、その中にママコーラスがあって、そのコンクールも毎年実施されているので、母親たちも家事の間をぬって猛練習しているという。この一事をもってしても市が如何に音楽に力を注いでいるかわかる。勿論音楽

のような情操教育のみではない。知育も体育も道徳もこれに劣らず教委が総力を挙げて指導しているという。

独立後僅か40年で、ここまで教育が充実し親も子も全く真剣に明日への希望に胸を張って頑張っている。児童たちの顔も明るく、礼儀も正しい。廊下ですれちがっても必ず立ち止まって会釈し、別れる時も明るい笑顔で、アンニヨンイ・カセヨ（さようなら）とあいさつを受け実に感じが良かった。

## 7. 最後に

現在の韓国は日本とくらべると、経済、技術など未だしの感があるものの、国づくりへの意欲、特に教育にかける熱意については全く眼を見はるものがある。日本の発展は技術、経済を中心としたもので、この急速な民主化、近代化の裏には失われた精神的国民遺産は多い。これにくらべて韓国の発展は日本ほど急速ではないが、東洋哲学的儒教精神が失われず、伝統的価値感の変動も少ない。三尺下がって師の影を踏まずという高邁な精神が日本の教育界から失われて久しいが、韓国に於ては今もなおこの美風は脈々と流れている。

かく述べるとすべて韓国礼讃と誤解されるかも知れない。勿論彼らの中に幾多の国民的欠点もあろう。日本に対する悪感情もなお依然として根強いものがあるが、我々日本人としては新生韓国が健全に発展し、日本の最友好国になってくれることを心から念願するのみならず、彼らから学ぶべき点を謙虚に吸収すべきである。特に教育面における、その真摯な姿は我々に強い反省を与える。その国情国民性、文化史的背景は異なるので、すべてが参考にはならないが、日本の教育界における生徒の教師殴打事件など韓国では考えることも出来ないことであり、乏しきを憂えず国の将来への発展を信じ、希望に満ちた教育に邁進している教師や学生の顔に羨望を越えて畏敬の念すら覚えるのである。

### 【参考文献】

- 韓国日報編 韓国人が見た日本
- 黒田勝弘著 韓国社会を見つめて
- 前川忠司著 韓国・朝鮮人
- 中谷和男著 韓国事情・今の読み方
- 金容雲 著 韓国人と日本人
- 李御寧 著 韓国人の心
- 李度珩 著 ソウルへの東京通信
- 梁泰昊 著 プサン港に帰れない

## 参考資料〔I〕

(友村 訳)

### 韓国の「国民教育憲章」

我々は民族中興の歴史的使命を帯びてこの地に生まれた。祖先の輝かしい魂を今日に生き返らせ、内には自主独立の姿勢を確立し、外には人類共栄に貢献する時だ。これ故我々の前進する場を広く教育の指標とした。

誠実な心と丈夫な体で学問と技術を習い実らせ、先天的な各々の素質を啓発し、我々の立場を躍進の足場とし、創造の力と開拓の精神を育てる。公益と秩序を優先させ、能率と実質を崇尚にし、敬愛と信義に基づいた相互互助の伝統をひきつぎ、明朗で暖かい協同精神を培う。我々の創意と協力を土台にして国が発展すれば、国の隆盛が私の発展の根本になることを明らかにし、自由と権利に従った責任と義務をつくり、進んで国家建設に参与し奉仕する国民精神をより高める。

反共民主精神に透徹した愛国、愛族が我々の生きる道であり、自由社会の理想を実現する基本である。道は子孫に受けつがれ栄光のある統一祖国の前途を見つめ、信念と矜持をもった勤勉な国民として民族の智恵を集め、たゆみない努力で新しい歴史を創造しよう。

### 「教育課程」

#### 第1章 教育課程構成の方向

我が国は永年の歳月に及ぶ試練と克服の時代を通り、今こそ和合と建設の新しい時代に入ってきている。第5共和国は民主主義を上着化し福祉社会を建設し正義社会を具現する一方、教育を革新し文化を暢達することを国定指標としている。

それ故我々の教育は民主、福祉、正義社会の建設に積極的に貢献することができる自主的で創意的な国民を育成することを目的としている。

従って学校教育は正しい精神と丈夫な体を鍛錬する健康な人、趣向が高尚で美しさを追求する審美的な人、知識と技術を習い問題を合理的に解決する能力ある人、人間を尊重し、規範に従い行動する道徳的な人、自分と共同体のことを進んで決定し実践する自主的な人を育て助け、全人的発達が成立するようにしなければならない。

この教育課程はこれと同じ学校教育の目的を達成するのに適合する教育内容を精選し、初期には統合的な教育経験が成立するようにし、漸次これを拡大、深化することができるように、組織し、特に健全な心身の育成、知力と技術の培養、道徳的人格の形成、民族共同体意識の高揚に力点をおき構成した。

- |             |             |             |                   |
|-------------|-------------|-------------|-------------------|
| 1. 健全な心身の育成 | 2. 知力と技術の培養 | 3. 道徳的人格の形成 | 4. 共同体意識高揚        |
| (イ)健康な身体    | (イ)基本学習能力   | (イ)主体的自我意識  | (イ)社会的連体意識        |
| (ロ)豊富な情操    | (ロ)科学的探求能力  | (ロ)正直性と誠実性  | (ロ)民主福祉正義社会建設の使命感 |

- |           |            |             |             |
|-----------|------------|-------------|-------------|
| (イ)高尚な趣味  | (ロ)基礎知識と技術 | (ハ)自律性と責任感  | (ニ)透徹した国家意識 |
| (ヒ)強靱な意志  | (ヘ)問題解決力   | (ホ)公正性と秩序意識 | (ヘ)民族文化暢達意欲 |
| (コ)審美的な態度 | (セ)進路開拓能力  | (ケ)人間尊重態度   | (コ)人類共栄意識   |

## 第2章 国民学校教育課程

### 1. 教育目標と編成

#### ア. 教育目標

国民学校教育は学習と日常生活に必要な基本能力を育て正しい生活態度を形成し、全人的な成長のための素地を育てることに目的がある。

- 1) 保健と安全に対する基礎知識と技能を修得させ健康な身体を持たせるようにする。
- 2) 美しさを感じ育てることを知らしめ、これを創意的に表現することができる基本能力を持たせるようにする。
- 3) 日常生活に必要な基本的な言語能力と数理的思考力を育てる。
- 4) 自然と社会の理解をするために初歩的な知識を持たせ、知的に探求することができる基本能力を持たせるようにする。
- 5) 基礎的な生活技能と勤儉節約する態度をつくり自立に必要な基本的な資質を持たせるようにする。
- 6) 日常生活に必要な基本的な礼節と秩序を守り、隣人と国を愛する心根を持たせるようにする。

#### イ. 編成と時間配当

##### 1. 編成

(ア)教科活動と特別活動に分けて編成した。

①教科活動は道徳、国語、社会、算数、自然、体育、音楽、美術、実科に編成した。

②特別活動は児童会活動、クラブ活動、学校行事に編成した。

##### 2. 時間配当

(ア)教科活動時間は教科間の連関性と学生の発達段階を考慮して1・2学年は教科間の統合を、3学年以上は分化を原則として配当した。

(イ)特別活動時間は3学年以上から配当

		1	2	3	4	5	6
教科活動	道徳			68 (2)	68 (2)	68 (2)	68 (2)
	国語	374 (11)	374 (11)	238 (7)	204 (6)	204 (6)	204 (6)
	社会			102 (3)	102 (3)	136 (4)	136 (4)
	算数	204 (6)	136 (4)	136 (4)	136 (4)	170 (5)	170 (5)
	自然		68 (2)	102 (3)	136 (4)	136 (4)	136 (4)
	体育			102 (3)	102 (3)	102 (3)	102 (3)
	音楽	204 (6)	238 (7)	68 (2)	68 (2)	68 (2)	68 (2)
	美術			68 (2)	68 (2)	68 (2)	68 (2)
	実科				68 (2)	68 (2)	68 (2)
	計	782 (23)	816 (24)	884 (26)	952 (28)	1,020 (30)	1,020 (30)
特別活動			34 (1～)	68 (2～)	68 (2～)	68 (2～)	
集計	782 (23)	816 (24)	918 (27～)	1,020 (30～)	1,088 (32～)	1,088 (32～)	

した。

## 音楽科（教育課程より）

### 教科目標

望ましい音楽の体験を通じて音楽性を啓発し豊富な情操と創造性を育て、調和のある人格を形成する。

- 1) 音楽的感覚を啓発し単純な楽曲を進んで読譜し、聞き、書くことが出来る能力を育てる。
- 2) 楽曲を個性に従って創造的に表現することが出来る能力をつくり音楽活動に楽しく参与する態度を育てる。
- 3) 楽曲と演奏の特色を理解し、音楽を愛護する楽しい態度を育てる。

## 6 学年

### 1. 目標

- ア) 聴覚に基づいて楽曲の構成要素を積極的に把握するようにし、楽譜に依って単純な長調と短調のメロディーをすすんで読譜させ、聞き、書くことが出来る能力を育てる。
- イ) 歌唱と器楽の創造的な表現能力を体得せしめ、
- ウ) 聴覚によって楽曲の特徴を把握する能力と注意深く鑑賞する態度を育てる。

### 2. 内容

#### イ. 基本能力

##### (1)リズム

- (イ)全体的なリズムの特徴を把握し表現する。
- (ロ)いろんな拍子のリズムを読み、打ち、聞き、書く。

##### (2)メロディー

- (イ)フレーズと楽曲全体の特徴を把握し表現する。
- (ロ)ハ長調、ヘ長調、ト長調とイ短調の平易なメロディーを楽譜によって表現し、聞き見分ける。
- (ハ)ハ長調でなり立つ8小節程度の単純なメロディーを聞き書きとる。

##### (3)和音

- (イ)主要3和音（長調短調）を感覚的に聞きわける。
- (ロ)主要3和音（ハ長調、ヘ長調、ト長調及びイ短調）によって和音合唱と終止形合唱をする。
- (ハ)ハ長調の主要3和音を聞き書く。

##### (4)形式

- (イ)聴覚を通じて楽曲の構成を把握する。

(ロ)動機と小楽節及び大楽節の特徴を楽譜によって把握する。

#### (5)速度

(イ)楽曲の特徴に合った速度を理解し表現する。

(ロ)単純な速度記号を理解し表現する。

#### (6)強弱

(イ)強弱に従った楽曲の変化を把握し表現する。

(ロ)単純な強弱記号を理解し表現する。

#### (7)音色

(イ)管弦楽に用いられる楽器の音色を分別する。

(ロ)ソプラノ、アルト、テナー、バスの音色を把握する。

### ロ. 表現能力

#### (1)歌唱

(イ)正しい姿勢、発音、呼吸及び無理のない声でうたう。

(ロ)変声期または変声後に合った調節した音域でうたう。

(ハ)見てうたい、聞いてうたう。

(ニ)歌詞の内容と楽曲の雰囲気を知って創造的にうたう。

(ホ)斉唱、独唱、輪唱、2部合唱、易しい3部合唱をする。

#### (2)器楽

(イ)メロディー楽器の奏法になれる。

(ロ)易しい器楽合奏または重奏をする。

(ハ)楽曲の特徴を知り創造的に演奏する。

#### (3)創作

(イ)即興的にメロディーをつくり表現する。

(ロ)8小節程度の単純なメロディー（ハ長調）をつくり書く。

(ハ)つくり書いたメロディーに合った和音を考える。

(ニ)リズム楽器中心の易しい合奏曲を編曲する。

### ハ. 鑑賞能力

(1)リズム、メロディー、和声等の変化と楽器の音色を把握する。

(2)楽曲の種類と演奏形態及び作曲家等を理解し鑑賞する。

(3)よい楽曲をすすんで選び鑑賞する。

参考資料〔Ⅱ〕

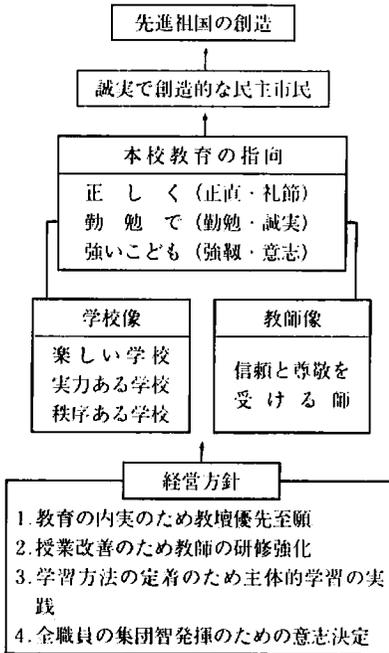
音楽科教授学習案				かっこう P.24～P.27	
対象	6学年11組 男 30、女 27 計 57名	場所	6～11 教室	日時	1985、7、12(金)6校時
				指導者	教師 李 美珠
題材と概観	1. 合唱	規模と水準が最も高い3部合唱で本学年では6回目の経験であり3部では2回目である。 ※本学習の課題 楽譜発表式学習は3回目の経験			
	2. 鑑賞	題材曲とかっこうワルツを鑑賞してメロディーについてうたうこと			
	3. 民謡	いろいろな国の民謡をうたいながら民謡の感じを知り比較すること			
題材の目標	1. 題材曲のリズムを自分の力で知り打つことが出来ること 2. ワルツ風リズムの特徴を知り題材曲のメロディーを見てうたうことが出来ること 3. 和音の美しさを感じ楽曲の特徴を知り部分3部合唱をすることが出来ること 4. かっこうを主材とした美しい音楽を鑑賞する 5. いろいろな国の民謡を鑑賞しながらその感じを話すことが出来ること				
指導計画		主 題	中 心 要 素		
	1 (本時)	リズム及びメロディーになれること	・リズムを見てうつこと ・楽譜を見てソプラノのメロディーを始唱		
	2	合 唱 和音をききかく	・パート別の練習 ・階名で2部3部合唱 ・ハ長調の和音をきいてかく		
	3	合 唱 完 成 かっこうワルツ鑑賞	・パート別楽器演奏 ・階名かメロディーで3部合唱 ・かっこうワルツ鑑賞		
		民謡をうたう 民 謡 鑑 賞	・合奏合唱 ・民謡をうたう ・民謡鑑賞比較		

本時教授学習案

本時目標		へ長調の題材曲を、ワルツ風リズムの特徴を知り見てうたうことができること	本時主題 教科書	リズム及びメロディーになれること P24～P27	
段階	中心要素	教授・学習活動		時間	資料及び留意点
感覚的感知	雰囲気助成 目標確認 題材曲をきく	前週習った曲の合奏・合唱 既習曲“春がくれば”を階名合唱 題材の目標と主要内容を知る 歌詞よみ関連図面を見、拍子を打ちながら題材曲をきき感じをつかむ		5'	前週曲の楽譜 リコーダー ピアノ 関連した絵 録音機 テープ
基礎技能の把握	曲の内容 リズム習熟 階名よみ	教科書の楽譜を見て次の内容調査発表 ・拍子 ・組み立て ・形態 ・歌詞内容 ・楽想 題材の主要リズムの形を見てうつ リコーダーの和音演奏でリズムをふく 教科書楽譜の階名よみ		5'	曲分析カード 個人別調査カード  リズムカード リコーダー
表現方法の探索	ソプラノメロディーの習熟  ワルツ風リズムの特徴を知る	楽譜の一部を見て階名唱 列別の課題でやった楽譜を板にはめこみ→表現 →相互学習→表現 曲の順にしたがって進行し拡大楽譜は連結完成する  全体の楽譜を見て一同で階名唱 強弱の表現 楽しくうたう		15'	課題の楽譜 楽譜板  大太鼓 大太鼓で強拍を演奏させ流れる中でワルツ風のリズムを感じさせる
	メゾソプラノとアルトのメロディーの習熟	楽譜を見て表現技法の討議 ・よくそろわないふしを弱く出す ・ワルツ風リズムの特徴 表現 ・延長記号・臨時記号の表現 ・強弱 楽想の表現 楽譜を見てメゾソプラノとアルトのメロディーをリコーダーで演奏してみる 階名でうたってみる		7'	表現技法を討議し実際表現
創造的表現	楽想表現 階名で合唱	パート別で楽想を知り階名唱 曲の一部を階名合唱 重唱・重奏と鑑賞 ・希望する児童の指名表現		5'	楽譜 ピアノ リコーダー
内面化	歌詞唱	ソプラノメロディーを歌詞唱 即興的に身体表現しながら歌詞唱 課題 各部をリコーダーかメロディー楽器で演奏 次時—合唱、和音のききとり		3'	自由に表現するように 雰囲気助成
<p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童たち全体が積極的に楽しく表現に参与したか？</li> <li>2. ワルツ風リズムの特徴を知って表現したか？</li> <li>3. 楽譜を見てうたうことは90%以上の児童たちが成就したか？</li> <li>4. 列別活動及び相互学習は活動的であったか？</li> </ol>					

## 参考資料〔Ⅲ〕

### 大邱南都国民学校要覧（抜粋）



### 保護者実態

#### 1. 学 歴

	大卒	高卒	中卒	小卒	他
父	33.3%	36.6%	21.1%	8.3%	0.7%
母	15.8%	41.1%	30.9%	12.4%	0.8%

#### 2. 職 業

商業	会社員	公務員	工業	労働	サービス業	その他
23.4%	20.5%	15.2%	6.9%	8.7%	4.6%	20.7%

#### 学級編成

学 年	1	2	3	4	5	6	計	
学級数	8	9	9	9	10	11	56	
児童数	男	230	248	267	261	275	337	1,618
	女	209	225	227	233	287	291	1,472
計	439	473	494	494	562	628	3,090	

#### 教職員

校長 1 教頭 2 教師 57 養護教師 1 用務員 4 他 1 計 66



## 아름다운 표현 (美しい表現)

☆ **♩** 왈츠풍 리듬의 특징을 살려 창조적으로 표현한다.

**♩** 악곡의 특징을 살려 3부 합창을 창조적으로 연주한다.

**♩** 뼈꾸기를 주제로 한 아름다운 음악을 감상한다.

**♩** 못갓춘마디와 늘임표의 역할을 이해하고 왈츠풍의 가락을 아름답게 불러 보자.

한적한 산길 따라서 나는 올라갔지. 우거진 깊은  
숲에서 뼈꾸기 노랫소리, 뼈꾸곡

**♩** 악곡의 특징을 살려, 무리 없는 소리로 아름답게 3부 합창을 하여 보자.

라 라라 라라라 라라라 뼈꾸, 라 라라 라라라 라라라 뼈꾸

**♩** 요나손 작곡 '뼈꾸 왈츠'를 감상하고 아름다운 가락을 코노래로 따라 불러 보자.

라 라라 라라라 라라라 뼈꾸, 라 라라 라라라 라라라 뼈꾸

☆ ワルツ風のリズムの特長を生かして創造的に表現する。

楽曲の特長を生かし3部合唱を創造的に演奏する。

かっこうを主題にした美しい音楽を鑑賞する。

不完全終止の一節と延長記号の役割を理解しワルツ風のメロディーを美しくうたって見よう。